

苫小牧市医師会

医師

山岸みどり

ピアスと金属アレルギー

近年ピアス型イヤリング（以下ピアス）の普及に伴い、金属に感作されることによって起こるアレルギー性接触皮膚炎が問題となってきています。

ピアスの装着に先立ち耳たぶに穿孔をつくること必要ですが、最近は孔あけ用キットが市販されており、気軽に試みられるようになつたのも一因かと思われます。

赤くはれたらすぐに装用を中止

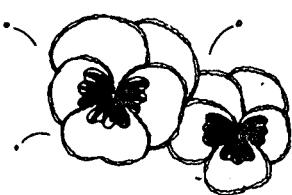
正常な皮膚は有害な物質を通さないバリアーとして働き生体を守ってくれいますが、汗をかいて皮膚が弱アルカリ性になつたり、傷がついたりしていると金属を溶かし体の中に入り込みます。抗体ができるとアレルギーを引き起こす準備は完了します。抗体ができるとアレルギーを拒絶する抗体をつくりあげます。

完成まで金属アレルギーを起さない素材（チタンなど）を穿孔部に装着する」とが大切です。18金はその二五%がニッケルなど他の金属で構成されていますから、ファーストピアスとしては危険と言えます。いっても金属アレルギーが成立すると治療には数年の歳月を要することもまれではありません。赤くはれたり湿疹（しつしん）など

原因となる金属としては、ニッケル、コバルトがよく知られていますが、従来安全といわれていた金でも反応が起こることが報告されてきています。このような皮膚症状に悩まされないためには、ピアスホール

原因金属が判明したらその金属を遠ざけ、歯科治療の際にもその金属を使わないよう注意が必要です。

せっかくのおしゃれ心を皮膚炎で台無しにしないよう気配つてください。



お問合せは、苫小牧市医師会

電話 33-47201